第６次所沢市総合計画特別委員会会議記録（概要）

平成３０年８月３１日（金）

開　　会　（午後　１時３０分）

【議　　事】

○特定事件　第５次所沢市総合計画の総括について

【概要説明】

吉川経営企画課主幹

第５次所沢市総合計画総括について、事務局より説明させていただきます。

第５次所沢市総合計画総括表に沿って御説明いたします。

まずは、第５次所沢市総合計画総括表の全体の見方の御説明をいたします。１ページをごらんいただけますでしょうか。

総括表上段の基本構想の欄につきましては、第５次所沢市総合計画基本構想に挙げている各章の市の課題、方向性とまちづくりの目標の実現に向けた主な方針を記載しております。

続きまして、１ページ中段にあります平成２３年度から平成２９年度までの取り組みのうち顕著な成果があったものにつきましては、それぞれの取り組み内容と成果及びその取り組みが、どの基本構想のまちづくりの目標の実現に向けた主な方針に該当するかを記載しております。

例えば、第１章、コミュニティにおきましては、平成２３年度に新たな地域コミュニティの活動の拠点として、市内全１１地区にまちづくりセン

ターを開設しました。この取り組みの成果としまして、まちづくりセンター内にコミュニティ推進担当を配置し、地域コミュニティづくりを支援する体制が整備できましたことから、成果の欄にはその旨を記載しております。

また、基本構想に挙げているまちづくりの目標の実現に向けた主な方針の箇所につきましては、地域活動、自治会、町内会やＰＴＡ、地域福祉、コミュニティなどの支援に該当しますことから、その内容を記載しているものでございます。

続きまして、下段にあります平成２３年度から平成２９年度の取り組みのうち、第６次所沢市総合計画に引き継がれる課題では、その章におけるそれぞれの課題と今後の方針を記載しているものでございます。

先ほどと同様、第１章、コミュニティを例にとりますと、課題として、市内１１地区中９地区で地域づくり協議会が設立されましたが、残り２地区についても設立に向けた支援を行う必要がありますことから、今後の方針として、残り２地区の地域づくり協議会設立に向け引き続き支援を行うこととしています。まちづくりの目標の実現に向けた主な方針の欄には、上段の項目と同様に、どの方針に該当するものかを記載しております。

なお、第６次所沢市総合計画前期基本計画では、基本方針１－１－１、地域コミュニティの充実において、地域づくり協議会の設立と活動への支援を行うこととしております。

次に、資料２ページをごらんいただけますでしょうか。

こちらには、各節における目標指標及び達成率などを記載しております。なお、後期基本計画に係る指標において未達成指標につきましては、理由や分析を記載しているものでございます。

第１章、第１節の地域コミュニティを例に挙げますと、後期基本計画に係る目標指標は、２つ目の地域づくり協議会により実施された事業数と３つ目の自治会、町内会への加入率の２つであります。両指標とも若干ではありますが未達成でありますことから、指標下の後期基本計画に係る未達成指標の理由、分析において分析等を記載しているものでございます。

なお、１つ目の地域の底力支援事業の奨励金支給件数につきましては、前期基本計画のみの指標でありますことから、後期基本計画の欄には網かけの表示としているものでございます。第２節以降も同様に、各指標の達成状況を記載したものとなっております。

次に、４ページをごらんいただけますでしょうか。

ここからは、各節における平成２３年度から平成２９年度の取り組みと、その成果及び平成２３年度から平成２９年度の取り組みのうち第６次所沢市総合計画に引き継がれる課題を記載しております。

先ほどの１ページは、章全体としての内容となっており、４ページから８ページまでが、第１章に係る各節ごとの内容を記載しているものでございます。ほかの章につきましても、同様の流れで第５次所沢市総合計画の総括を行っているものでございます。

第５次所沢市総合計画総括表の見方についての御説明は、以上となりま

す。

続きまして、ここからは各章の目標指標を中心に説明させていただきます。

まず、第５次所沢市総合計画後期基本計画における第１章から第８章までの目標指標全１０１項目のうち、平成２９年度時点での達成率１００％のものは５２件、８０％以上のものは３６件、５０％以上のものは３件、５０％未満のものは１件でございました。実績値がいまだ未確定のものや定性的な指標などがほかに９件ございますが、それらを除いた全ての指標の達成率を平均しますと、平成２９年度につきましては９割を超える達成率となっております。このことから、第５次所沢市総合計画は全体的に順調に進捗していると考えられます。しかしながら、達成率１００％を満たしていないことから課題が残っていることも確かでございます。

それでは、各章の指標の説明をいたします。

資料の２ページ、３ページをごらんいただけますでしょうか。

第１章、コミュニティの各指標の達成率の平均をとりますと、約９４．０％と９割を超えており、さらに、各指標とも８割を超えております。この結果の要因としましては、まちづくりセンターの開設や人権講座等を実施したことにより、地域コミュニティづくりを支援するとともに、人権課題についての理解も深められるなど、心の触れ合いを大切にしたまちづくりを進めてきたことが考えられます。

続きまして、１０ページ、１１ページをごらんいただけますでしょうか。

第２章、安心・安全においては、後期基本計画の達成率の平均が約９８．２％と非常に高く、各指標とも全て８割を超えております。

この結果の要因としましては、総合防災訓練の実施や防災行政無線の充実を図るとともに、消費生活センターの事務所の機能を本庁舎に移転することで相談窓口の体制を強化し、消費者トラブルの未然防止に努めたことが考えられます。

なお、防災や防犯については、毎年度実施している市民意識調査においても要望度が高いことから、引き続き市民が安心して暮らすことができる地域社会を構築していくことが必要であります。

次に、１９、２０ページをごらんいただけますでしょうか。

第３章の達成率の平均は、約８９．１％とおおむね９割となっております。この結果の要因としましては、所沢市こどもと福祉の未来館を開館し、地域福祉の拠点として所沢市地域福祉センターを、地域における子育てを支援する拠点として所沢市こども支援センターを同施設に開設するなど、子育てや地域に根差した福祉の充実を図るとともに、共生社会実現のため所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例を制定するなど、福祉の分野において力を入れたことが考えられます。

また、健康分野では、保健と医療を一体的に捉えて、体系的に施策の方向性を示した所沢市保健医療計画を所沢市として初めて策定し、計画の推進を通して、生涯を通じた健康づくりや地域医療の充実等に係る施策を積極的に進めたことが結果に反映されたと考えております。

なお、資料の２０ページの国民健康保険特定健康診査の受診率の達成率が低い理由としましては、医療機関で生活習慣病等を治療中の被保険者が多いことと併せ、多くの４０代から５０代の男性は働き盛りの年代であり、健診に対しての意識が希薄であることが要因と考えられます。

また、大腸がん検診の受診率につきましては、国からの通知により対象者の算出方法が変更となり、受診率が大幅に低くなり、その影響で達成率も低くなったものと考えております。

次に、２９ページ、３０ページをごらんいただけますでしょうか。

第４章、教育・文化・スポーツの達成率の平均は、約９５．８％と９割を超えております。この結果の要因としましては、まず、公民館や生涯学習推進センター、図書館等を活用したさまざまな学習機会の提供や、郷土の自然、歴史、芸術、文化面においての体験学習などを実施した結果だということが考えられます。また、学校教育に関する取り組みの評価も、達成率の高さの要因の一つと考えられます。

今後は、学校、家庭、地域が連携した学力向上への取り組みを充実していくとともに、公民館においては地域に根差した学習や、時代や社会の変化に応じた学習機会を提供するとともに、教育分野だけではなく、さまざまな分野とのネットワークをさらに広げ、地域づくりの拠点として一層重要な役割を果たしていくよう努めてまいりたいと考えております。

また、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした新たな文化芸術と既存の文化財も活用した文化の風薫るマチを目指していきたいと考え

ております。

続きまして、４１ページ、４２ページをごらんください。

第５章、産業・経済の達成率は、平均約９２．３％と９割を超えております。これは、旧所沢浄化センター跡地への企業誘致やロケーションサービスの推進などを実施し、産業の活性化やにぎわいの創出を進めてきた結果と考えられます。

なお、第２節、商業の商店街空き店舗活用実績数につきましては、達成率が５０％となっております。商店街空き店舗活用については、照会等はありますが、本事業の対象条件に合わないケースが多かったことが原因だと考えております。

次に、４９ページ、５０ページをごらんいただけますでしょうか。

第６章、環境・自然の達成率の平均は、約９８．８％と９割を超え、全ての指標で９０％を超える結果となっております。この結果の要因としましては、大規模太陽光発電設備の設置や道路照明灯及び防犯灯のＬＥＤ化などの創エネ・省エネの推進、緑の保全や３Ｒの積極的な推進を図り、マチごとエコタウン所沢構想の三本柱であるエネルギー、緑、資源循環の施策事業を充実させてきた結果が結びついたものと考えられます。

なお、環境基本計画に挙げた目標の達成率及び市域における温室効果ガス排出量の削減率につきましては、現在集計中のため未確定となっております。

続きまして、５７ページ、５８ページをごらんいただけますでしょうか。

第７章、まちづくりの達成率の平均は、約９８．３％と非常に高く、全ての指標において８割を超えております。この結果の要因としましては、浄水場や下水道施設の耐震化を進めることにより、災害に強いインフラ整備を行うとともに、所沢駅西口の開発など、所沢駅周辺を初め、各鉄道駅周辺などの生活拠点の整備を進めてきた結果だと考えられます。

最後に、６７ページ、６８ページをごらんいただけますでしょうか。

第８章、行財政運営でございますが、達成率の平均は約９７．７％と高く、全ての指標が９割を超えているものでございます。効果的な市政運営や健全な財政の維持に取り組んできたことと併せて、所沢市市民参加を進めるための条例を制定するなど、市民参加の機会の拡充を図ってきたことによる結果だと考えております。

なお、第１節の指標にあります行政改革大綱、行政経営、有言実行宣言に掲げた目標の達成率につきましては、現在集計中のため未確定となっております。

各章の指標の概要は、以上となります。

なお、第５次所沢市総合計画の総括はもとより、社会情勢や国の動向、人口推移、財政状況などを踏まえて、第６次所沢市総合計画の設定につなげているものでございます。

簡単ではございますが、第５次所沢市総合計画の総括の説明は以上となります。

【質　　疑】

福原委員　　これから質疑する前に確認しておきたいことが１点だけあって、この総括表の見方というか、意味なのだけれども、この中身、取り組みがあって、成果があって、まちづくりの目標の実施実現に向けた市の方針となっている。この成果の意味なのだけれども、成果というのはどういう意味か。これは例えば具体的に見ると、例えば取り組みの一番初め、平成２３年度にまちセンを開設したと、成果としては体制が整備できたとなっているのだけれども、これは何か結果みたいな気がする。つまり成果ではない。市民サービスにどのように貢献したのか、もしくは市民にどういうふうな利益があったのかとか、そういうふうな具体的なやったことに対しての、結果ではなく、成果というのは本来そういう意味なのではないかと私は思っているのだけれども、その辺の説明をお願いしたい。

市川経営企画課長　　この総括表の成果の意味でございますけれども、比較的よい方向に動いたものの、事象と効果、それぞれそれが混在しているような書きぶりになっているところはございます。そういった今の福原委員から御指摘があったように、ただ単にそれを行っただけで、市民に対してどれだけのよいことが起こったのかというところは書かれていないような部分もございますが、事象があるけれども、その後に課題が残っているようなものについては、そのような書きぶりが残っているところはございます。わかりにくい説明になってしまったかもしれませんが、そのような考えでこの資料に

	ついては作成をしております。
福原委員	そうすると、この後の課題、今後の方針というところで、１個ずつ全てのものは入っていないにしても、執行部で取り組み、一応成果と出ているけれども、成果として挙げたものに対して、その中でも課題はこれで、今後の方針がこうだよと、単純にそういうふうに見ればいいということなのか、見方としては。
市川経営企画課長	今、御指摘のありましたとおりでございまして、もともとこの総括表の作成をしたきっかけというのが、まずは第５次総合計画を総括することで、次の第６次総合計画を策定していく上で、どのような課題を引き継いでいかなければいけないのかというものを洗い出すために作成したというところがございます。その意味からも、成果の部分よりも、この下の段の引き継がれるべき課題の欄のところをより重視しながらつくってきたというようなところがございますので、幾分その成果の欄については、書きぶりが十分でないところも残ってしまっているところはあるかとは思います。
石原委員	総括表の作成に当たって、その全体の総括というのは、どういうプロセスをどういう時期で行ったのか。

市川経営企画課長	まず、本日お配りしている総括表につきましては、実は最新の情報で書きかえているものでございまして、このもとになる資料というものにつきましては、第６次総合計画の策定を検討し始める前の段階で、各所属に作成を依頼したものでございます。タイミングとしては、平成２９年度の初めに一度作成をしておりまして、現在ここでお配りしております資料につきましては、現時点での最新データ等に書きかえなどを行って、つくり上げているものでございます。
桑畠委員	気になったのは数学的に間違っているんだよね。なぜかというと、それぞれのこの達成率の平均は全く数学的に意味がない。分母も違えば分子も違う。それから、パーセントと言われても何も意味がないと思うんだけれども、何でそんなことをこの総括で言ったのかは、どういう了見なのか。
市川経営企画課長	御指摘のとおりでございまして、それぞれの指標につきましては独立している指標でございますので、確かに平均値を出すことに何の意味があるのかということは、意味合いはあるかと思うんですが、ただ、全体で１００を超える指標がある中で、どの程度達成度がいっているのかという目安として、平均値などもお示ししてお話しをしたところでございます。なので、当然個別に見ていけば、１００％に到達しているものもあれば、そうでないものもある中で、本当は１項目ずつ見ていきながら、達成していない項目をどう解決していくのかというようなところを議論していく必要

	があるかと思います。
桑畠委員	市民活動支援センターの利用者満足度１００％とあるのだけれども、全く実態からかけ離れていて、先日、市民活動支援センターの中核的なメンバーから、要らないんじゃないかという話まで出ている。この乖離はどうやって説明するのか。一体誰にとったら利用者満足度１００％というのが出てくるのかさっぱりよくわからない、まずこれを説明してもらいたい。
市川経営企画課長	まず、利用者満足度のこの調査の対象者としては、当然、市民活動支援センターを利用されている方たちにアンケート調査等を行った結果でございます。達成率が１００％ということでございまして、ここでございます進捗の実績の欄をごらんいただきますと、上段に目標値ということで８０％を目指してきたところ、実績として９０％の満足であるというような回答を得られたことから、達成率としては１００という形でお示しをしているものでございます。
桑畠委員	これは数学的に間違っている。８０分の９０は１００を超えている。だから、もうちょっと大事にやったほうがいい。クレディビリティというか、いいかげんだなとしか思わない。なぜなら、８０で９０だったら１００幾つ、おかしい。まずそもそも実態として、私に聞こえてくる話とこれが全然違う。

何を言いたいかというと、結局こういう分析の仕方でいくと、市民活動支援センターというものを縦割りで捉えて言っている。ただ、今、この市民活動支援センターで最大に課題と私が感じているのは、同じような機能を持ったものが市内に３つ存在するわけ、１つは市民活動支援センター、１つは生涯学習推進センター、もう一つは男女共同参画推進センター、つまりこれは場所貸し、メールボックス場所貸し、それから印刷機という、この団体にとって欲しいものがあって、それがある場所というのは３つもある。では、男女共同参画推進センターでやっていることは市民活動ではないのか。それから、生涯学習推進センターでやっていることは、こちらに関係者がいらっしゃるから余り言えないけれども、あれだって市民活動だ。皆さんは市民活動をどういうふうに定義されているのか。つまり市民活動の市民は何か。所沢市民か。それとも、もっと別の意味を含む市民なのか。どういう意味なのか、この市民というのは。

市川経営企画課長

私も所管ではないので、所管の考えというものを代弁するというところではないのですけれども、市民活動支援センターの対象の主なところというのは、恐らくはＮＰＯ活動に近いところを発展させていくというようなところの目的から設置されてきたところではございます。

今、御指摘のありましたとおり、市民活動支援センターでの活動、生涯学習推進センターでの活動、男女共同参画推進センター、どこも確かに活動している主体が若干違いながらも、似たような活動が行われているとい

	うような課題については私たちも捉えているところでございまして、その役割の整理というものは各所管にも伝えているところではございます。 　ここで言うところの市民活動支援センターにつきましては、ＮＰＯ活動につなげられるような育成を中心には考えているところでございますが、なかなか成果が見られていないというのも実際ではあるかと思います。
桑畠委員	本来であれば、ちゃんと厳しくモニタリングするのであれば、参加者の満足度ではなくて、市民活動支援センターを通じて設立されたＮＰＯ法人の数でしょう、目標は。それはどうなっているのか。幾つできたのか、あそこを中心に。私が聞いたところ１個もないよ。それで２，０００万円かけている。大体、この第５次総合計画の間に一体幾つのＮＰＯが市民活動支援センターを通じて設立されたのか。そういう指標をとらなければだめじゃないか。
市川経営企画課長	申し訳ございません。私、今の手元にはその資料は持ってございません。
大石委員長	確認だけれども、今、桑畠委員の質問の中にあったＮＰＯの数を増やしていこうというのは目標値にあったか。
市川経営企画	目標値としては設定はしてございません。

課長	
桑畠委員	登録数なんか増やしたって意味がない。来る人たちはメールボックスと会議室と印刷機があるところならどこでもいい。既存の団体がどこかに、自分の近くに入る、それだけなんだよ、この所沢のこの３つの組織というのは。近場に行くだけの話でしょう。 だから、何なのか、この市民活動支援センターは。まず市民の定義がはっきりしていない。私流の回答を言うのも失礼なのだけれども、要するに、公的な領域を公共部門ではなくて、民間部門は見ないというのがこの市民活動の教科書的な定義だ、だから、公的な活動を担えるものを市民活動とちゃんと定義しないから、ただのサークルの集会所になっている。そんなもの幾つつくったって、何もこの所沢市の公的な活動を担う市民団体が養成されない。それで利用者満足度なんかとったってしようがない。だから、もし６次総でこんなくだらない満足度だったらこれは修正だ。６次は、まだ出ていないけれども、どうなっているの、参考に聞きたい。
市川経営企画課長	審議会からいただいた答申については既に公開しているものがございまして、そこでは市民活動支援センターに関する指標といたしましては、利用者数を事業目標として掲げております。
桑畠委員	だから、総括になっていない。これだけぱっと言ったところで、みずか

らの２，０００万円も税金を使ったことに対する真摯な振りかえりもなくて総合計画と言われたって、それは何かという話、これ１個とってこうだ。こういうことが全部においてずっとこの議論をしていったら、もうちょっと真剣にやったほうがいい。特に市民活動ということに対するちゃんと定義をしていくということ、それは皆さんの仕事だから。総合調整だから。市民活動支援センターの所管は皆さんではないか。

市川経営企画課長　市民部が所管です。

桑畠委員　市民部なの、では仕方ない。

でも、やはりちゃんと考えて物事をしないと、言葉の定義から、政策目標から、数値設定から。だから、予告しておくけれども、こういういいかげんな指標については、申し訳ないけれども全部削除させてもらう、本当に本番になったら。真摯に答えられないような、常識的な、行政の皆さんがプロとしての定義をわきまえないような、気の抜けたようなそういう指標に関しては全部カットだ、はっきり言って。その辺はもうちょっと真摯に、もう出し直しもできないだろうから、考えたほうがいいと思う。

城下委員　１ページの顕著な成果があったものの中のさまざまな人権課題を取り上げた人権講座の部分なのだけれども、成果というところでは、ネットによるいじめとか、あと、ＬＧＢＴなどの課題に理解を深められたというふ

	うにここには書いてあるのだけれども、この下のほうにいくと、それによって次に引き継がれる課題というところでは、この成果を踏まえてどういう議論があって、この人権の理解がさらに深められたから次につなげるというふうになかなか読み取れないのだけれども、どういう議論があってこういうふうになったのか。結構期待していた、私、正直なところ。
市川経営企画課長	この成果から今後の方針に至るところでの議論等につきましては、私も細かいところまでは存じてはおりませんけれども、第５次を策定された当時には、ＬＧＢＴ等の議論というのが余り行われてこなかった中でも、そういった一般的な意識の高揚というものが次第に高まってきているというところは、いわゆる成果として示しているところでございます。この成果を踏まえて、そういったこれまでの取り組みをまた継続していくという趣旨が、今回の今後の方針のところに示しているものでございます。
城下委員	だから、深められたからこそ、それを次の計画で発展的な部分で位置づけていくというのが、本来普通に考えてそういうふうになるのかなと私なんかは思うのだけれども、どうもそういう意味では読み取れないので、そういう発展をさせていくという理解で、この位置づけになってきたのか。
市川経営企画課長	この総括表自体は、総合計画を組み上げていく中での参考資料としてつくっておりますので、ここに書いてある表記が、そのまま総合計画の文章

として盛り込まれているわけではなくて、この基本的な考えをもとにどういう方向性を示すかというのは、また第６次の素案の中で、そういった書き方は示していくところでございます。

城下委員

３ページなのだけれども、第４節の男女共同参画社会の部分なのだけれども、未達成の指標の理由・分析というところで、審議会の委員に占める女性の割合が、努力したけれどもなかなかできなかったというような内容になっているのだけれども、これは従来型で来たからではないかと思う。議会の中で、それこそ比率をもっと高めるべきではないかという質問だって出てきたわけですし、国でさえ女性活躍推進法というところなんかも通してやると言っていながら、市内にはさまざまなそういった団体はある。だけれども、既存の団体で審議会のメンバーを選出しているという現実もあって、なおかつ公募委員については、これは無作為か。

市川経営企画課長

無作為による市民委員の参加というのは、確かに比率としては上がっておりますが、委員会によっては無作為を導入していないところもございます。

城下委員

無作為となると、関心を持っていない人も中にはいらっしゃるということでは、それぞれの審議会等の委員の比率を、私はフィフティー・フィフティーに持っていくべきだというふうに思っているのだけれども、そうい

	う意味でのその辺の手法の見直しとか、そういった議論が総括の中では出てきていたのか。それがないまま６次にいくとなると、ちょっとそれは違うんじゃないかと思うのだけれども。
市川経営企画課長	審議会の委員、無作為抽出なども含めて、市民委員の中での女性の比率というのは確かに上昇は見られてはいるところではございます。ただ、目標としている数値というところでいきますと、実績としてはこれまで３１．６％が３６％まで上昇はしているけれども、目標には達しなかったというような趣旨でございまして、今は４割を目標値としているのですけれども、何分、団体推薦などを求めたときに、どうしてもそれに当たる女性の委員が見つからないというようなやりとりもある中で目標が達成できなかったというのが、ここの記載の趣旨になってございます。
城下委員	既存の団体だからこそやっぱり狭まっているわけで、既存ではない団体も含めて広げていくという議論が、そういった総括の中であったかどうか。
平田経営企画部長	実際に、ただいま御質疑にもありましたとおり、審議会によっての構成メンバーというか、１号、２号、３号というような形でいろいろと内訳がそれぞれあると思うんですけれども、その中で、公募委員に関しましては、そもそも無作為抽出とかで、できるだけフィフティー・フィフティーとい

うお話もありましたけれども、ほとんどの審議会の中では、同数の形でお願いするような形で行っておりますので、そのあたりについては、かなりこの目標の４０％に近い形にはなっております。

ただし、先ほどもありましたとおり、団体からもということで御推薦をいただく中で、そもそも団体から、構成メンバーの中から女性を選んでいただけないということもあったりすることもありまして、どうしても実際の数字として目標を達成できないということがございます。

また、その構成される団体のそもそもの選び方にも問題があるのではないかということでございますけれども、これにつきましては、各審議会等の中でまた見直し等がある、改選の時期とか、そういったときがありましたらば、ぜひ検討などもするように、各所管のほうには、全体的な中で流すようなことも必要かと思っております。

城下委員

きょうの午前中に全協での議員研修会で、藤村先生のとてもいい講演を聞いて、やっぱり従来型のそういった団体とか、そこだけではなくて、もっと広げていくということでも大事なんだなというのは私もきょう勉強したのだけれども、そういう視点も今回の総括の中では議論はされたということはどうか。

平田経営企画部長

通常の中でも、一つ一つの審議会の選任の中で、全て企画総務課のほうには合議として上がってきておりますので、その時点で目にしたときに、

担当所管のほうに比率がなぜ低いのかということにつきましては、足りない部分については、その都度しっかりヒアリングをしておりますので、その中で、さまざまな審議会の中で、どうしてもこういったことで努力したけれども、この数字になってしまったということを一つ一つやっておりますので、総括というよりも、どちらかというと、日々の取り組みの中でそのあたりは努めております。

城下委員　よくわからない。団体を新たに、そういった対象も広げていくような議論はあったのか。

平田経営企画部長　具体的には、そのあたりについての議論があった事例というのは特に聞いておりませんというか、所管のほうからそういったことを取り組むということは特にございませんでした。

赤川委員　先ほどから出ている目標指標の件だけれども、今回１章に関しては、６次を見ると全部と言っていいほど変わっていると思う。先ほどもちょっと議論されていたが、目標指標の設定の段階で、担当部といろいろ協議とかしていると思う。５次の総括として、６次を策定するに当たって、その辺を気をつけて、どういう総括をしたのか、目標の設定の仕方、先ほど出ていたが、特に１章について。

市川経営企画課長	まず、５次総合計画の指標においては、これまでは、いわゆる事業目標に当たるものと、事業の結果、起こった成果の指標が混在しているのではないかというようなところを結構御指摘を受けてきたところがございます。第６次の策定に当たっては、いわゆる各基本方針に対しての事業目標という、どのぐらいのかさの事業を実施していくのかという目標をまず設定した上で、それを実施した結果、成果としてどういうものがあらわれることを目指すのかというようなところで、いわゆる評価指標という考え方と事業指標という考え方をそれぞれ分けて設定するというようなことは、現在考えてきたところでございます。
赤川委員	要は、成果としてはっきりわかるようなものを指標として、５次の反省を含めて反映したと、そういうことか。
市川経営企画課長	そのとおりです。
石原委員	まず、経営企画部の皆様には、総括作業、大変お疲れさまであった。 ６ページの人権のところだけれども、ＬＧＢＴとかヘイトスピーチなど、新しい人権問題にも触れていただいていると思うのだけれども、北朝鮮による日本人拉致問題も非常に深刻な人権侵害であるけれども、平成２３年から昨年までの取り組みの中での位置づけ、そして、余り詳しいとこ

ろまでは入らないけれども、今後、そういった時代の情勢を見て、また、こういった問題も考えてほしいという、その辺の流れについてもちょっと触れていただきたいと思う。いかがか。

市川経営企画課長

それぞれの項目についての総括については、当然所管にお願いをしているところではございます。今回のこの総括をする上では、この人権の項目に限らず、要は、これまでの踏襲を単にするのではなく、その時点での新たな社会情勢であるとか、所沢市に置かれている状況を見ながら、その成果の評価であるとか、今後に、今の段階では特に課題となっていなくても、将来的に課題になっていくだろうというような視点のもとにまとめてもらいたいというようなところで、各所属とはやりとりをしてきたところでございます。

この人権の課題につきましても、今、いわゆるヘイトスピーチであるとか、ＬＧＢＴが新たな課題として掲げられておりますけれども、今の段階でもまだ人権課題として取り上げられていないようなものというのも、当然この後、何らかの形で出てくるようなこともあろうかと思いますので、そういう視点を持って進めていきたいというふうに考えております。

桑畠委員

１つ気になったのだけれども、１０ページが一番わかりやすいのだけれども、家具などの転倒防止策を行っている市民の割合が、前期で１００％で後期で８９．３％となっている。下の自主防災組織が１００．０％とな

っている。これ有効数字を２種類とっているのだけれども、多分皆さんの解釈だと、実績以上のものは１００％ということなんだと思う。そうすると、それでいくのなら、自主防災組織は１００％にすべきだ。そもそも有効数字の取り方をばらばらにしている。小数点以下１個というのをあったりなかったりする。これ何か分けているのか。どういう考えでやったのか。どういう基準でこういうふうにやっているのか。大事だよ、有効数字は。

さっきから言っているとおり、なぜ合計値を合計して平均とるのがおかしいかというと、有効数字をとれる話ととれない話をごっちゃにしている。つまり、皆さんは目標値以上を１００％という書き方をしている。これも誤りだ。誤りというか、定義的におかしい。おかしいとしても、だったらこれは１００％で、有効数字をとっている１００．０％もある。なぜか。

市川経営企画課長

小数点のあるなしの部分に関しては、すみません、統一が図られていなかったということになるかと思います。

今回、この達成率の１００％を超えているものについて、一律で１００％に切ったという形になっているものの考え方といたしましては、目標値に対しての達成率ということでしたので、１００％を超えていったものについては、もう目標をフルカウントで達成できたということで、１００％というふうな表示を使ってしまいました。それはデータ的におかしいのではないかということについては、ちょっとそこは私も不勉強で申し訳

	ございませんが、今回の総括表についてはそういったルールで作成をしたところでございます。
桑畠委員	何で自主防災組織は１００．０％なのか。有効数字を一桁とっている。どういうことか。有効数字を一桁とる必然性はない。上の８９．３％みたいなものは一桁とる。とるならとる、とらないならとらない、四捨五入するならするしない、切り捨てにするのかと、どういう基準を設けているのか。それで１００．０％なんて出されては困る。だって、２１１で２０８で１００％だったら、有効数字を置く必要はない、はっきり言って。どういうことか。いいかげんにやったということを認めてよ。いいかげんでしたと、考えが足りませんでしたと。
市川経営企画課長	その表示についてのところについては、私も知識がなく、このような表示になってしまいまして、知識がなかったことでそのような指摘を受けることになったものと思っております。申し訳ございませんでした。
桑畠委員	知識ではない、ちゃんとやっていない。知識の問題ではない。有効数字というのは中学校の理科でやる。知識はみんなある。中学校を出ているのでしょう。だから、やっぱりちゃんと考えて出していない。どういうふうにこのパーセントをとるのかとか。１００．０％なんて表示はあり得ない。こういう１００％を超えたものについて。これ１００．０％と出すという

	ことは、２０８分の２０８だったら１００．０％と書いてもいい。ところがあるものは１００％で有効数字ゼロ、あるものは１００．０％と、これではさっきから言っているけれども信頼性がない。どうなっているのか。ちゃんと見ているのか。市長決裁文書なのか。
平田経営企画部長	私が決裁したものでございます。大変申し訳ございませんでした。
桑畠委員	本来なら出し直しだ、そういうことは言わないけれども。こういうところにちゃんと細かく配慮しているかどうかわからない。
城下委員	これは６次総を検討する会にもこれは出ているわけか。これをもとに５次総の総括をして、６次総の検討に入っていったという理解でいいか。
市川経営企画課長	この資料につきましては、策定委員会においては検討の資料として使っておりますけれども、市民検討会議等では、この資料については提示はしていないところでございます。
城下委員	では、市民検討会議には、どういう振り返りをして、課題があったという資料の説明があったのか。

市川経営企画課長	市民検討会議と所沢市の総合計画審議会の役割は幾分か違うところがございまして、市民検討会議につきましては、所沢市の職員とともにグループワークのような形で、課題の抽出、現在の所沢市のまちのありようから課題を抽出するというようなところで、グループワークのような形式で行ってきたところでございます。 所沢市の策定委員会及び所沢市総合計画審議会におきましては、こういった過去の第５次総合計画の進捗状況などを踏まえて、第６次に向けてどのような課題が残っているのかといったような洗い出しを行ったところでございます。
大石委員	エアコンをつけるつけないという議論の中で、総合計画の中ではもう１回位置づけしようとか、そういった議論は全くなかったのか。
市川経営企画課長	エアコンにつきましては、市民にとっても関心の高いことでございましたので、当然そういった話が会議の中でも出てはきております。一応エアコンの設置につきましては、その方向性について、今現在では市の方向として示してもきているところでございますので、この書き方の中で、そのあたりが含まれてくるような形では現在検討はしているところでございます。 答申案の中では、その表記を盛り込んでございます。

城下委員	たしか木質化も５次にあったよね。それに対するのが、ちょっと見たのだけれども、私の目にはとまらなかったので、どういう評価で、これは何か６次のほうにも持ち越しになっていくものか。どういう議論が総括されたのか。どういう意見があったのか。
市川経営企画課長	今、御指摘のありました、例えば空調設備であるとか、木質化の総括表における反映という部分では、特にここに記載がないというようなところでの御指摘かと存じますが、実際に審議会等での議論等はございましたので、第６次の際には所沢市としての方向性は示していくというような中で、どのような記載が適当であるかというところは所管とも調整をしたところでございます。
城下委員	どんな議論があったのかというのは、所管が違うのだけれども、何かその辺はあるのか。
市川経営企画課長	所管の中でどのような議論がされたかというところまでは、私どももそこまでは存じてはいないところではございますが、総合計画の審議会でもそういった発言があったと記憶しておりますし、また、行政経営推進委員会等でもエアコンの設置については議論がされたところでもございまして、そういった内容を踏まえて、原課との記載の内容の調整はさせていただいたところでございます。

大石委員	地域新電力については、今年度の新しい事業で第５次にかかってきてしまったのだけれども、その点については、ここにのせようかとか、のせないかとか、そういった議論はあったか。
市川経営企画課長	地域新電力につきましては、総括の表の中での反映というような議論は特にございませんでしたが、第６次においては大きな取り組みになるところでもございますので、そういったことは踏まえた上で、第６次総合計画の中では反映していこうというような調整はございました。
桑畠委員	５６ページの中に狭山ケ丘区画整理の話が出てこないのだけれども、皆さんとしては課題としては考えていないということなのか、６次において。全く今、打開策が見えないような厳しい状況に置かれていると思うのだけれども、それほどの大きなことではないということで、この５６ページの総合計画に引き継がれる課題の中には何も記述がないという理解でいいか。もうやめるのか。やめるならやめるでいいよ、何も書いていない、すごく重大だ。
市川経営企画課長	狭山ケ丘の区画整理事業につきましては、個人情報的な部分もございますので、一部の地権者の立ち退きの関係が幾分まだ解決が見えていないところがございまして、計画としては完了がしていないというような現状ではございます。幾分道筋が見えてきているところもございまして、この総

	括の中ではあえて記載を盛り込んでいないというようなところではあるかと思いますけれども、事業を第６次の期間中はもう行わないというようなことでは決してなくて、その完了に向けては取り組んでいくものというふうに考えております。
桑畠委員	答えになっていない。だから、その個人の情報とかを聞いているのではなくて、今、担当課ではないからわからないかもしれないけれども、私が把握している範囲でいえば全くめどが立たない状態だと思う。こんな重大な課題を引き継ぎ事項に入れないで、所沢市の全事業を点検して今進捗がないのは２つだよね。１つは土木建築系、１つは所沢カルチャーパーク。これは議会がちゃんと提言を出した。もう一つは狭山ケ丘区画整理。これは６次総の間にももしかしたらうまくいかないぐらいの重大事だと思うのだけれども、本当にほぼ解決するという見解でいいか。
市川経営企画課長	細かなところの課題につきましては、私もちょっと把握ができていないところがございますが、それを目標として進めているものというふうには認識はしております。 この第６次の期間の中で解決を見ることができるのかどうかにつきましては、申し訳ございませんが、私からはちょっとお答えができかねるところでございます。

桑畠委員	市として、総合計画というのは市の総合計画ではなくて、市民の総合計画というのが私の基本的な考えだから、市民にとってもやっぱり結構重大な課題だと思う。１００億円を余計にかかっている。だから、そのことについて軽く考えているということか。６次の書きっぷりがどうなっているかわからないけれども、市としては総合計画の中では余り重要度がないから書いていないという理解でいいか。
市川経営企画課長	区画整理事業につきましては、重要でないなんていうことはまずございませんで、どの地区についても重要度は高いものというふうには考えております。区画整理事業全体として、土地利用転換事業の中で、記載がこの総括の中で漏れてきているというところにつきましては、そこについては大変申し訳なかったと思います。
桑畠委員	申し訳なかったということは、本来入れるべきものを入れ忘れたということか。それとも、入れる必要はないと思っているか。その２つしかない。申し訳ないとか謝ってもらうのは構わない。皆さんはどう思っているのか。それによっては６次のこの議論では重大な決断を下さざるを得ないよということを私が言っているわけであって、本来入れるべきものを忘れたというならそれでもいいし、そこまでの課題ではないというならそれはそれで理解する。どっちか。謝ってもらう必要はない。

市川経営企画課長	記述の上では、より高い課題の部分の地区については、個別に記載があったというふうなものだというふうに捉えております。
桑畠委員	何を言っているか意味がわからない。何言っているのか。どっちか。だから、私たちはそれほど重大と考えていないと、それはそれで構わない。ああそうかと、私は私の考え、皆さんは出した側の考えでそこまでの課題ではないというならそれでいい。言葉でごまかさないで、ちゃんとはっきり答えてほしい。
平田経営企画部長	恐らく、御指摘の中で、狭山ケ丘区画整理事業の中での課題ということでございますが、しっかりともう固定化された課題となってしまっておりますので、これについては、狭山ケ丘区画整理事業の中では当然固定化した課題として引き継がれることはもちろんでございますが、こういった中で、記載の中にその一つの課題として取り上げていないというのは、所管との確認はしておりませんけれども、そのあたりの引き続きというような課題の中で所管のほうが表現をしてこなかったのではないかとは考えております。
赤川委員	基本計画というか、基本構想のほうに入ってくると思うのだけれども、５次の、８年前か、７年前か、大きい議論の中で人口ビジョンがもう出たので、それに沿って今言っていると思うのだけれども、３４万人を平成３

	０年に割り込んでくるのではないかと、最終的な５次が終わる段階で、その中でやはり大きかったのは、人口というよりも、そのときの人口動態で、少子高齢化で特殊出生率、非常に所沢が低いということで、それに対して８年間、施策を打ってきた。特殊出生率とか、あと生産年齢人口、まさにそちらが担当だと思うので、その辺はどうなのか、５次の総括は。
市川経営企画課長	人口の目標というところで申し上げますと、第５次所沢市総合計画におきましては、将来人口ということで、基本構想の中で、計画期間中の３４万人規模の人口を維持というような目標を掲げて進めてきたところでございます。そこには、合計特殊出生率の記載等はございませんでしたけれども、現在、人口の規模といたしましては３４万人規模を維持しているところでございまして、計画期間満了の時点でも、その維持については保てるものというふうに見込んでおります。 今度、第６次の期間におきましては、人口ビジョンの数値的な動向からいきますと、おおむね３３万人の規模を保っていくというようなところを目標としていくことになるかと思います。 また、今度第６次におきましては、人口ビジョン等も踏まえて、合計特殊出生率の上昇でございますとか、生産年齢人口の確保といったところが目標として掲げていく必要があるものというふうに考えております。
赤川委員	やはり大事なのは、８年前のときも議論していたけれども、やはり所沢

	というのは若い世代、合計特殊出生率が低いというのと生産年齢人口の話、それは取り組まなければいけないということはもう書かれているわけである。この８年間取り組んできた成果というか、その施策として子育て支援とか、いろいろあったわけである、枝葉のように。それについて結果的にどうだったのか。その辺の総括というのは、大きい話なのだけれども、やったのか。それなりの成果が上がったのか。
市川経営企画課長	人口動態にどのような効果があらわれたかといったような視点での総括というものは行っておりませんで、結果を踏まえて、今後の６次に向けて検討を行ったというような状況ではございます。
荒川委員	６７ページを聞きたいのだけれども、財政の実質公債費比率というところ、何が聞きたいかというと、前期は２．４％、それから後期は２．１％、これが現状である。目標の立て方、前期の場合は目標が６．８％である。これからはいろんな開発がいっぱいあって、それが進めばもうどんどん上がってしまうのはわかるのだけれども、ここの時点で何で６．８％とか６％という目標を設定しているのか。予定したけれども、こういうことができなかったから、この際発行しなくて済んだとか、そういうのは、大ざっぱでいいのだけれども。
林経営企画部	この指標をつくった担当ではございませんけれども、６．８％を６．０％

次長	に下げております理由としますと、６．８％と設定した段階で、実績が２．４％とかなり開きがございます。ですので、これは６．８％では目標が緩過ぎるということで、これを少し下げて６．０％にしたものというふうに考えております。
荒川委員	裏づけがあってこの６．８％にしたのか。この需要で公債費はこれだけ借金しなければいけないとか、そういうものではないのか、この目標は。
林経営企画部次長	この当時、平成２７年より少し前の当時になるかと思いますけれども、現状でいきますと、御存じのように大きな事業はめじろ押しでございます。当時は、今と違いまして、そこまで大きな事業がどんどんあるという状況ではございませんでした。そういう状況の中では、実質公債費比率がどんどん、６．８％の目標をさらに高めなければいけないほど上がっていくだろうという見込みがなかったというものでございます。そのために目標値を６．８％から６．０％に引き下げた、厳しくしたというものでございます。
谷口委員	この行財政運営のところに、いわゆる民間委託の項目、記載があるけれども、今回の総合計画の中で民間委託をいろいろ小出しに、手を打ちながらやっていたと思うのだけれども、その中でこれは非常に成果があったなというようなところは具体的にどういったものがあったか、個別にお答え

いただきたい。概要で結構である。

市川経営企画課長　いわゆる窓口業務のような部分を委託化することで、処理のほうにかけるというのは市民課の窓口などでも今行っておりますけれども、そういった役割を、ある程度民間にお任せするところを決めて、その部分を職員がするべきところに力を注ぐことができるようなつくりのところについては一定の効果があったものというふうには考えております。

越阪部委員　行政サービスの中で重複している面で見直しをするとか、また、縦割りとか横割り、縦割りとよく行政は言うよね。それで、横のつながりみたいなことがわかって、統一されることがいいんじゃないかというみたいなことが、どこかでわかることがあるのか。そういうことを検討したとか、何とかということはわかるのか。

大石委員長　要は、総合的に取り組む事業は４つある。４つあって、いろいろな課が関わっているけれども、関わりながらこの４つを評価できたかということではないか。

市川経営企画課長　特に重点課題のところでございますけれども、こちらについては、毎年度、政策評価という形で評価を行っておりまして、これは４部のそれぞれ一番関わりの深い部長がゼネラルマネージャーという役割を持ちながら、

	関係のある部署の職員での、いわゆるプロジェクトチームのような形態の評価対応をもちまして、その中で評価を行っているようなところがございまして、横のつながりの中での見直しなども、その体制の中で行っているところでございます。
越阪部委員	具体的には、重複が直ったとか、こういうことがあって成果みたいなことがあったということがあるのか。
市川経営企画課長	１つには、今課題となっている地域包括ケアシステムのような考えの中で、いわゆるこれまではどちらかというと福祉部門が中心に検討を進めてきている中で、やはりコミュニティの中でどういうふうなあり方が考えられるかというようなところで、これは第６次にもつながっていってしまう話ではあるのですが、第６次の章立てなどにそのあたりの部分が重複を防ぐ、もしくはつながりを強めるというようなところでの形としてあらわれてきているものは、１つ成果として挙げられるかと思います。
平田経営企画部長	ただいま重複を取り除くことができたかというようなことの御質疑もありましたけれども、実際に政策評価をする中で関係する部長職が集まって会議を行いますけれども、実際には、一緒にいろいろな会議として行う中では、実は新たに重複する部分というか、一緒に取り組んでいく部分というのが生まれることは実際にありまして、なかなか効率的でなかったも

のを排除することはもちろん行っておりますけれども、新たに共同で行うことによって新たな広がりを持てるというようなところもありまして、実はそれは両方の視点で、この政策評価という仕組み、あと、施策評価というのも各節ごとに行っていますが、そのあたりは、各関係部署が集まることによって両面の効果が出ているのは確かな実態ということになります。

【質疑終結】

休　　憩　（午後　２時５２分）

再　　開　（午後　３時００分）

【議　　事】

○特定事件　第６次所沢市総合計画基本構想及び前期基本計画（案）について

大石委員長　　本日は、参考人として、長岡恵子さん、赤池慎一さんにご出席をいただいております。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のためにご出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のないご意見をお述べくださるようお願いいたします。

【参考人意見聴取】

赤池参考人　　皆さん、こんにちは。きょうお呼びいただきました赤池慎一と申します。よろしくお願いします。

長岡参考人　　長岡恵子と申します。よろしくお願いいたします。

赤池参考人　　では、座ったままで失礼します。

お手元に資料として５枚お配りさせていただきました。特別委員会の方々は、恐らく「絆」ミーティングの基本的な資料は配られてお持ちだと思うんですが、きょう私たちが参考人として意見を言ったりするに当たって参考になるものということで準備してきましたので、こちらをごらんになりながらお話を聞いていただければと思います。

では、細かい中身については入らずに、概略的なところと最終的な意見というような形で報告させていただきます。

そもそもというところなのですが、「絆」ミーティングについて御説明します。

私たちは市民ですので市民検討会議の一員なのですが、「絆」ミーティングは、第６次所沢市総合計画を検討するために市民検討会議と職員プロジェクトチームの２つの組織で構成された会議体ということで集められました。職員の方も、参加するときにラフな格好というんですか、ネクタイ締めて、スーツ着てという感じではなく、和やかな雰囲気の中で活発に意見交換が行えるような、そういうことを目指して会議を行いました。

検討結果については、皆さんに示されていると思いますが、総合計画審議会等の審議を通じて、第６次所沢市総合計画に反映されるということで、そこにつながる議論をしましょうということでお話をしました。

ちなみに、市民検討会議は、無作為抽出で選出した市民が、各班９つに分かれたのですが、班でいうと無作為抽出で選出した市民が３名、各分野の関係団体のメンバーが１人もしくは２人という形で、９班に分かれて議論した中でいうと４１人で構成され、計画素素案の検討を行うということでした。

また、職員プロジェクトチームについては、市各部等の職員４８人で構成され、「絆」ミーティングにおいて市民検討会議とともに協議し、素素案等をまとめ策定委員会へ報告するという形で、イメージとして「絆」ミーティングと言われると、市民が集まって話しするのかなというふうに思っていたのですけれども、実際のところは市民と職員の人たちとで話し合いを行うという、そういう場でした。

「絆」ミーティングの開催日程と主な検討内容ですが、昨年６月から１２月にかけて、各２時間、計３回実施されました。第１回の「絆」ミーティングについては、昨年６月４日日曜日１０時から１２時まで、内容としては、市長の話が最初にありまして、市長からは東日本大震災を契機として人と自然との共生、あるいは支え合い、助け合い、子どもを大切にする、厳しいけれども、温かい善きふるさと所沢を次世代に残していきたいというようなお話がありまして、その思いというか、それを受けて各市民、職員の人たちと話し合いを行ったという形です。

第１回については、総合計画についてのオリエンテーションを行っていただいた後にグループワークを行いました。グループワークのテーマは、

基本構想につながるものですが、市の今後１０年間を見据えた将来像の検討をしようということで、班について紹介していませんでしたが、９つの班、市民生活、福祉、子ども、健康・医療、教育、環境、産業振興、街づくり、行財政運営という９つなのですが、９つの班に分かれて、それぞれの班の中で意見を出し合うということで将来像の検討を行いました。

目指したい姿ということでは、左側だけ読み上げますが、地域の愛着・人とのつながりがある、子どもが笑顔でいられる、誰もが安心して暮らせる、自然の豊かさを楽しめる、生活の利便性が高い、所沢らしさが発揮されているなどの主な姿についてのイメージが出されまして、その中に幾つかの事柄が、これはその班だけに限りませんけれども、意見が出されたものが、これは第１回の検討結果のまとめの中にあるものを抜粋してきたものです。

また、続いて第２回が８月２６日、同じく２時間かけて行われまして、前回の検討結果の確認をした上でグループワークをして成果発表と、９つの班に分かれて、与えられたテーマを、例えば私は子どもという班だったのですが、子どもについてそのテーマで、それぞれ市民検討委員が意見を言ったり、こういうことはどうなのだろうかという疑問出しをした中で、職員の人たちと、それはこういうことをやっているんですよとかという話をしながら意見をまとめるという形で行いました。

第２回のグループワークのテーマは、これは基本計画につながるものだと思いますが、分野別になっていましたが、所沢市を取り巻く状況を整理

し、これから取り組むべきことを考えようということでした。

私の子どものところで説明しますと、子育て支援のワンストップサービスを実現するというような形で、いろんなところに利用者というか、市民が行ってそれぞれ手続を行うのではなくて、こういうことで困っている、こういうことをしたいといったときに、子育て支援に関してのワンストップサービスが実現できるような、そういったことがこれから取り組むべきことではないかということですとか、あるいは、子どもや子育てに関する情報発信ツールを開拓して、当事者に対するタイムリーで適切な情報提供、あるいは相談場所がわかるような、そういった情報提供を行っていくべきではないかというような意見が出されました。そのほか幾つかありますけれども、後ほどごらんいただければと思います。

第３回の「絆」ミーティングについては、１２月３日午前１０時から１２時まで、第２回と同じような形で、前回の検討結果の確認をした上でグループワーク、成果発表を行いました。

ここでは、実施計画と書きましたけれども、基本計画のほうが近いですか、重点的な取り組み案について検討し、自分たちができることや地域、行政との協働を考えようということで、私たちが何を考えていて、実際にどういうふうに関われますかというような、そういう話を、市民の立場であったり、職員の方たちのそれぞれの立場、役割の中で意見を出し合うというような形でした。

このときは、この時点での重点的な取り組み案ということで、その後に

掲げてあります４つ、人と人との「絆」健幸長寿という１つと、それから地域で見守る子どもの育成ということと、環境に優しい「エコタウン」、それから愛着と誇り所沢ブランドというこの４つの重点的な取り組み案について、班がその下に書かれていますが、私が所属していた３班は２番の地域で見守る子どもの育成についてを取り上げ、自分たちができることや、地域、行政との協働を考えるというような形で議論を行いました。

同じく今の言った地域で見守る子どもの育成について報告しますと、アイデアや意見などでは、親子を孤立させない、あるいは、いつでも相談できる支援が必要ではないかということとか、民間を巻き込んだ楽しく身近な環境学習、地域での教育や居場所づくり、スポーツサークルや子ども食堂など、それから見守りを支える仕組み、そして、ボランティアの活用や高齢者との交流などというアイデアや意見が出されました。

また、市民や個人として取り組んでみたいこと、できそうなことということで、必要な支援を必要な人につなぐことが大事だろう、そういうことを取り組んでみたいという意見。それから、地域・行政等と協働で取り組むと良いこととして、学校を活動の拠点として活用すること、要するに、教育施設としてだけではなくて、地域のまちづくりとか、そういったこととして活用したらどうかということで、放課後デイサービスや土曜教室などというような意見が出されました。また、「悩んでいるのはあなただけではない」と伝える講演会の開催や、地域で面倒を見られる取り組み、子ども食堂など、あるいは人材のコーディネートの仕組みということで高齢

者の活用といったことが協働で取り組むと良いことという中で意見が出されました。そのほか３点ありますので、後ほど詳しくごらんいただければと思います。

その後、４枚目、最後の紙です。真ん中から、「絆」ミーティングを振り返ってということで、私なりの見方ということでまとめました。ちょっと重複するところもありますが、読み上げさせてください。

２０１７年６月から１２月にかけて、各２時間、計３回の「絆」ミーティングを行った。今回の「絆」ミーティングは、所沢市自治基本条例の第２２条の規定にそって行われ、基本構想、基本計画、実施計画の策定にあたり、その企画立案の段階に市民等が参加する取組みになっていたというふうに考えています。市民が所沢市の職員と合同で会議を行うことで、市民が興味・関心を持っている事柄やそのことについての考え、あるいは重視している事柄、何を重視しているのかというようなことについて市職員が直接話を聞くことができたというふうに思っています。また、市民は、市の職員から所沢市が取り組んでいるさまざまな事業の内容や課題などについて説明を聞くことで、事業に関する知識を得て、理解を深める機会ともなったというふうに考えています。

「絆」ミーティングの開催回数が３回というふうに限られていて、各２時間での意見交換となったことで、これは両方の見方があると思うんですが、参加した市民や職員にとって大きな時間的負担とはならなかったというふうに私は考えています。

特に、先ほど申し上げたように、市民検討会議の委員は無作為抽出で選ばれた市民ということで、いわゆる行政に非常に関心を持っている人たちが集まった会ではなかったわけです。たまたまくじに当たって、こういうことがあるのだけれども参加しますかといって来た一般の市民の方が多いので、なおさらその負担ということについてはハードルを下げる必要があったのではないかなというふうに思いますが、そういう意味で大きな時間的負担とはならなかったというふうに見られると思います。

一方で、議論を深めたり、さまざまな角度で検討を行うなどの機会を設けるには至らなかったというふうに考えます。これは、第５次所沢市総合計画を策定する際の市民検討委員会、恐らくもう少し会議の数が多かったり、幾つかに分かれて何かやったりというふうにされたのではないかと思うんですが、そういう形ではなかったということが今回の大きな特徴であったと思います。

一方で、先ほどから申し上げているように、市民と市の職員が一緒にやったというところが、３回ということをある種、密度の濃いものにできたのではないかなというふうに思っています。

こういった進め方、全体の流れということで、この点では、事務局である経営企画部経営企画課の職員や、特に職員プロジェクトチームの職員の方たちが、市民の意見や考えを踏まえつつ、第６次所沢市総合計画素案の取りまとめに大きな役割を果たしたというふうに考えています。

市民としては、いろいろ言いたい人がたくさんいるので、自分が参加し

てもっと網羅的に議論をして、計画の中にそのことを盛り込みたいという思いを持った人というのはたくさんいると思うんですけれども、その一方で、専門的にやっていらっしゃる市の職員の人が中心になってやることで、今回の所沢市総合計画の素案がつくられたという形になったのではないかなと。それは、無作為抽出の市民が参加して、広く市民が参加する中で素案をつくることにはいい形だったのではないかなというふうに思います。

長岡参考人

私は、「絆」ミーティングで初めて参加をして、全く市の方とは全然関係のない立場で参加させていただいて、ちょっと難しかった点は結構あったのですけれども、でも、私なりに市の方にちょっと触れ合ってみようと思いまして、障害を持つ方のシャフルボードをやって、スポーツを楽しもうというふうになって、地域住民のサークルの方とお会いして、その中で総合計画のことについてお話ししたら、すごく総合計画のことに対して興味を持っていただいて、今、総合計画の素案に沿っていろいろ作業をし始めているところが何かすごくいいなと思いました。ゴールボールであったり、あとは所沢わくわく応援団というＮＰＯ法人を設立しようみたいなことも何か話が出ているようなので、この総合計画をつくるに当たって、市民の方はすごく大変協力的になっているなという気はしております。

総合計画のお話でいろいろ、結構高齢の方は健康を意識してもっと市につくってほしい、健康マイレージであったり、何かそういう、自分の生活

している範囲のことを中心にやってほしいというふうに意見をしていて、すごくばらばらな意見がいろいろ出たのですけれども、でもその中でやっぱり一番一致した意見が、ＳＮＳで情報を発信していこうというのが皆さん一致した意見で、やっぱり自分がやっている範囲のことをみんなに知ってほしいというのがあったんです。

なので、私の意見としましては、皆さんが持っているＳＮＳを使って、いろんなことをやっているのを情報発信をしていく、そこで興味を持った方がそこに参加していくことで、いろんな方がつながっていくのかなという思いがあったので、総合計画を通して、ＳＮＳの力を使ってみんなでまとまっていこうというふうに、みんなの思いがまとまったのかなというふうに私は思います。

なので、私も、そんなになかなか所沢をしょっちゅう散策できないのですけれども、時間があるときはいろんなイベントに参加をして、こういうことをやっているんだというものを自分のＳＮＳで発信していけたらいいなと思いまして、今回はすごくわからないことだらけで、いろいろ皆さんに御迷惑をおかけした点もあると思うのですが、大変よい勉強になりました。なので、少しずつ私も市に協力できればいいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【参考人意見終了】

【参考人への質疑】

桑畠委員	お二人にお聞きしたいのだけれども、皆さんがこうやって参加した中で、御自身の学びになったというところは大変興味深くお聞きしたのだけれども、具体的に素案をごらんになって、皆さんが参加したことによって、少しこういう影響があって、この素案が形成されたなという部分があればちょっと教えていただきたいと思う。これを言ったら、最初の案はこうだったけれどもこうなったな、そういうのがあればお聞きしたいと思う。
赤池参考人	そのことでいうと、今ちょっと言いそびれたことがあったので、質疑に踏まえて直接答えていないのですけれども、私たちは３回やって、それぞれ意見を出して、結果そのフィードバックをいただいたのです。最終的にそれが素素案としてこうなりましたという会議は行わなかったので、言ってみれば、それをこうですというふうにはオフィシャルにはもらっていないです。そのことを、それを調べたりというふうにしないと多分わからないという形になります。
大石委員長	ただ、お二人は、市民検討委員もされているけれども、総合計画審議会にも入られている。市民委員の代表で、もしその中でのことも踏まえてあれば、どうぞ御回答いただければ。
赤池参考人	そこで言うと、具体的にちょっと言うのも難しいのですけれども、意見をきちんと捉えてもらって、その次回の会議に、そのことを踏まえた形で

の案が出てくるという、そういう印象がありました。それは、例えば何もないことを言って、こういうことをやりましょうと言って、所沢市でやっていない新たな取り組みが盛り込まれたということはないのではないかと思うんですけれども、比重をどこに置くかということですとか、優先順位についてどうするかというようなことについて市民の意見を聞いて、そのことが計画の中に反映されたり、あるいはスローガンというんですか、最初の言葉に関しても議論された中で、そのことを踏まえて最終的な素案になったというふうな感じを持っています。

大石委員長　　市民検討部会のほうには、素案は最後は出されなかったけれども、審議会の中で代表として確認させていただいたということか。

赤池参考人　　そうです。審議会の中では確認しましたので、審議会の中では、何度かの議論の中で出された意見を、最終的にこういう形に仕上がったということも見せていただいて、それで答申を行いましたので。

長岡参考人　　私の意見としましては、シャフルボードという障害者もできるというスポーツをやっている団体のことについて総合計画で少し、市民の方がこういうことをやっていらっしゃいますということをお話しすると、次の会議のときに、障害者福祉のことについて具体的なものが書かれるようになった印象はあります。

石原委員

基本的なことからお伺いしていきたいと思う。まず、長期間にわたる策定作業、本当にお疲れさまでした。敬意を表します。

お二人が選出されたのは、どういった団体の御関係で御選出されているのか、あるいは無作為抽出で選出されたのか、最初にお伺いしたいのと、それから、市民検討委員の中での議論で、さまざまな目標指標があったと思うけれども、数値的なものも含めて議論をされるような機会というのはあったのかどうかということを教えていただきたい。

赤池参考人

私は、所沢市青少年育成推進協議会からの推薦という形で参加しました。

その議論の中で、３回の限られた議論だったということもあって、具体的な数値について、中身まで踏み込んで検討する時間は、少なくとも子どもに関してはなかったですし、ほかのところも恐らくそこまでの話ではなかったと思います。

長岡参考人

私は、「絆」ミーティングで参加した際に市の方にお声をかけていただいた、特に何の団体でもない一般の市民です。

数値目標に関しては、素案もこれから具体的に数値を入れていくというような形であったので、特に数字に関しての目標については何もしておりません。

赤川委員　　今回の将来都市像だけれども、絆、自然、文化　元気あふれる『善きふるさと所沢』ということで、先ほど赤池参考人の話だと、何かこれがもう検討会議の前に大体決まっていて、これに基づいてみたいな発言をされたような気がしたのだけれども、これをつくる、この将来都市像について、これは私が一般質問で聞いたら、市長は市民検討会議か何かで提案をいただいたというふうに、私が考えたわけではないと説明していたのだけれども、その辺はどうなのかということと、それとあとは、将来都市像について、どういう考えをお持ちなのか、感想、それについて。

大石委員長　　素案の中では、絆、自然、文化　元気あふれる『善きふるさと所沢』という将来都市像というのが掲げられているのだけれども、先に市長から説明があったのか。

赤池参考人　　市長から話があったのは、東日本大震災を契機にという、人と自然との共生とか、支え合い、助け合いが大事だというそういう話はありました。言葉として将来都市像の言葉を与えられたわけではなくて、特に最初のときに、「絆」ミーティングの中ではその言葉自体は出てきていないです。市民がこういうことがいいというので、先ほど第１回の報告をしたような目指したい姿を意見を出し合ったりというような形で話をしましたので、それが与えられて、そのことが大前提ということではなくて、前提という

ことでいうと、市長の考え方は聞きましたということです。

赤川委員　　それと、『善きふるさと所沢』という善きというのが漢字に、善悪の善になっている。これについても何か特に検討会議から上がってきたものだという答えだったのだけれども、市長は。これについて何か感想はあるか。議論されたのか。

長岡参考人　　私は、初めにこの題名を拝見したときに、ふるさとというとお年寄りだけのイメージがあって、これは何でふるさとなんですかというふうに質問を逆にしたことがあったのですけれども、そのときに、結局皆さんが、若い人もそのうち、私も少し疑問に思った点はあったのですけれども、もう何か決まっているようなイメージはありました。

赤池参考人　　これは、審議会のほうで初めてこの言葉が出てきたのです。審議会の中で１回目に議論をしたときに、審議会の委員の中から、こういうことを入れたらどうかとか、最初に出された言葉は、これと全然違う言葉が出てきていたのですけれども、その案に対してはかなり疑問が出されて最終的にこういう形になったのですけれども、『善きふるさと所沢』に関しては、私はこの言葉を見たときに市長の顔が浮かぶなというふうに思いました。ただ、それが悪いことだとは思わなかったので、そのことについて、それはやめましょうという話はしなかったです。

荒川委員

赤池参考人にお伺いしたいのだけれども、計画策定に当たっての市民との関わり方ということについて、先ほど触れたように、一方では議論を深めたり、さまざまな角度で検討を行うなどの機会を設けるには至らなかった、赤池参考人としては、もっと市民の関わり方をもうちょっと深めたいという考えがやっぱりあったのでしょうか。

赤池参考人

私は、最初に委員として選ばれたときに、私は自治基本条例の検討委員の市民委員だったので、そのときの第５次総合計画の委員の方たちと何度か議論をしたりとかという機会がありました。そのイメージを持っていたので、恐らく今回も、そのとき何回会議があったというのは直接は聞かなかったですけれども、自治基本条例の市民検討委員会のときは相当会議を行ったので、それに近いような形での議論をしなくてはいけないのかな、あるいはすることになるのかなというふうに思って参加したのですけれども、参加してわかったことがありまして、職員の人たちといると無駄な議論が必要ないんです。無駄な議論というと変ですね。私のイメージですと、市民が集まるとやっぱり足りない知識があって、本当はやっていることをやっていないんじゃないかと思ったりとか、あるいはいろいろな事情があってやっていないというそこまで知らないので、その中でこういうことをやりましょうという意見が出たりするんじゃないかと思うんです。そのことが今回の「絆」ミーティングでいうと、それについてはこういうこ

	とをやっています、例えば、子育てに関しても、いろんな補助事業だったり、援助事業をやっていたりとかというようなことがありましたけれども、そういうことをやっている、だから、なおさらそれが伝わっていないことは課題だということについては議論ができたのですが、そういった意味での回り道というんですか、そのことが省略された分、踏み込んだ議論ということまで至らなかったということはあるにしても、プラスマイナス考えて、マイナスではなかったのではないかなというふうに思っています。
	【参考人への質疑終結終結】
	【質　　疑】
桑畠委員	今、参考人からもあったけれども、この指標の設定に関しては余り関与されていないというような印象だったのだけれども、それはそのことでよろしいか。
市川経営企画課長	指標につきましては、総合計画審議会のほうで指標項目については御提示をさせていただきましたが、具体的な数値についてはお示しをしないまま審議をいただいたという形です。
	【質疑終結】
大石委員長	第５次所沢市総合計画の総括及び、第６次所沢市総合計画基本構想及び前期基本計画（案）については、審査を終結することに御異議ないか。

（委員了承）

散　　会　（午後　３時３４分）